

2016年9月

第72号

ぱれっと



(株)北日本ベストサポート

TEL 018-883-1888

天皇陛下「思いを」お言葉に

天皇陛下は、8月8日ビデオメッセージで「高齢となった天皇の望ましいあり方」についてご自身の思いを率直にお話になりました。

お言葉の主な要点は、【現状と将来】「80を越え、次第に進む身体の衰えを考慮すると、全身全霊で象徴の務めを果たしていくことが難しくなるのではないかと案じている」【象徴天皇像】「天皇の務めとして、国民の安寧と幸せを祈り、人々の傍らに立ち、思い寄り添うことも大切と考えてきた。とりわけ遠隔の地や島々への旅も象徴的行為として大切と感じてきた」【健康と高齢に伴う懸念】「高齢化に伴う対処として国事行為や象徴としての行為を縮小することに無理があり、摂政を置いても、天皇が務めを果たせないことに変わりはない」「天皇が健康を損ない深刻な状態になった場合、社会の停滞と国民の暮らしへの影響が懸念される」【結び】「象徴天皇の務めが常に途切れることなく、安定的に続いていくことをひとえに念じ、国民の理解が得られることを願う」というものでした。

このお言葉の中では、「生前退位」について直接お話になったものではありませんが、ご公務を縮小させたり、摂政を置いたりすることへのご懸念や、一方で、象徴天皇の務めが途切れることなく安定的に続いていくことの願いをお述べになっており「生前譲位」の思いがにじみ出たものとなっています。

天皇陛下は「天皇を国民の象徴と定めた憲法」の下で初めて即位され、憲法で定められた「国事行為」のほか、象徴の立場で取り組む「公的行為」や新嘗祭などの宮中祭祀など「私的行為」の分野で活動の幅を広げられてきました。とりわけ、「戦没者慰霊」に力を注がれ、原爆が投下された広島・長崎市や地上戦で県民の4人に1人が犠牲となった沖縄県を巡られたほか海外でもサイパンや西太平洋のパラオ・ペリリュー島、フィリピンなどを訪れ、犠牲となった日本兵だけでなく国立英雄墓地に供花されるなど平和への祈りを捧げられました。

さらに、長崎県「雲仙・普賢岳噴火」、「阪神大震災」・「新潟中越地震」・「東日本大震災」など自然災害の犠牲者を悼み、被災者を勇気づけるため被災地を訪れ、両陛下はひざをつき、被災者に目線を合わせ励まし続けて来られました。

このように天皇陛下は、象徴としての公的行為を精力的にこなし、皇后さまとともに国民に寄り添ってこられました。

天皇陛下のお言葉の「生前退位」について、世論調査では日経新聞社89%、読売新聞社81%が容認、圧倒的な支持を得ています。しかし、「生前退位」については、憲法や皇室典範では認められていません。生前退位を認めると天皇の地位に恣意性が生まれ、政治的に不安定になる懸念がされたからです。皇室のあり方を含め多角的な検討を加えあるべき方向を探り出して頂きたいと思います。



平澤 興 語録より

一日生涯、一期一会の本当の意味は、一生に二度と会えない人生であるから、今日を生涯の最良の日となして、お互いに、よく話をし、お茶を飲んで語り合うことである。

一期一会には、その日一日に自分の生命をかける感激と夢をもった祈りがなくてはならない。
今日一日を祈るのである。

生きている一期一会、それは消極的ではなく、生々とした積極的な言葉である。

一期一会とは静かであっても、生命のかかった、そのうしろには燃えるような火があってこそ一期一会である。

仕事でもよい、お茶を喫するのもよい、後ろに燃えている火がなければならぬ。明日のことはわからない。只今に生命をかけて打ち込む情熱が大事である。

自らを礼拝し、自らの心に頭を下げて、言葉を超えた無限のものにひたすら頭を下げることである。

私は六十歳にして、感謝の眼で物を見なければ、ほんとうにものの姿が、わからぬことがわかった。

六十歳の関所を過ぎたということは、それは決して自分の力だけではない。多少は自分の力があっても、多くは皆さんのお陰であって決して自分だけの力ではないのである。

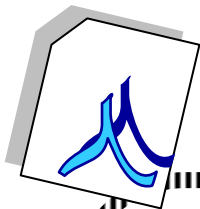
本当に人生を楽しむのは、八十歳からである。この年になって、がつくりする人と、新しい人生に燃える人が出て来る。

新しい人生に燃えるにはファイト(気魂・活力・気力)が必要であるが、それはひたすら生かされて生きているこの人生を喜びながら、自分の心に頭を下げ、自分に感謝しながら限りなき夢(希望)を求めるということである。

七十五、六歳から八十五、六歳までが一番伸びる時だ。

九十歳まで生きないと本当の人生はわからない。

今生きることが、限らない喜びであり、またとない楽しみである。



杉田 玄白 (江戸時代の蘭学医)

- 享保 18 年(1733 年) 9 月 13 日 江戸、牛込の小浜藩 (福井県) 酒井家の下屋敷に生まれる。
- 元文 5 年(1740 年) 一家は小浜(福井)に移る。
- 延享 2 年(1745 年) 父玄甫が江戸詰めを命じられ、家業の医学を修行。医学は奥医の西玄哲、漢学は儒者宮瀬竜門に学ぶ。
- 宝暦 2 年(1752 年) 小浜藩医となる。
- 宝暦 7 年(1757 年) 江戸日本橋に開業。町医者となる。
- 明和 6 年(1769 年) 父玄甫が死去。家督と侍医の職を継ぎ、新大橋の中屋敷へ詰める。
- 明和 8 年(1771 年) オランダ語医学書「ターヘル・アナトミア」を藩に相談し購入。
- 安永 3 年(1774 年) 「解体新書」を刊行。死体腑分けした前野良沢・中川淳庵らと「ターヘル・アナトミア」の和訳を行ったもの。将軍家に献上された。
- 安永 5 年(1776 年) 藩の中屋敷を出て「天真楼」と呼ぶ医学塾を開く。
- 文化 2 年(1805 年) 11 代将軍徳川家斉に拝謁、良薬を献上。
- 文化 4 年(1807 年) 家督を譲り隠居。
- 文化 14 年(1817 年) 4 月 17 日死没 享年 84 歳
- 明治 40 年(1907 年) 11 月 正四位を賜る。

オススメの BOOK



『未 到』

作者 岡崎 慎司 ベスト新書

サッカーのイングランド・プレミアリーグで「降格候補」と目されていた「レスター・シティ FC」が「世紀の番狂わせ」「奇跡」の偉業を成し遂げ初制覇した。

このチームの中で活躍した一人の日本人がいた。岡崎慎司である。シーズン中このチームはどう戦ったか、監督の采配は、自らの心の葛藤など岡崎の目を見たこと、感じたことが綴られている。

岡崎はスタメンで出場すること、ゴールを決めること、自分の存在感を示すことなどに腐心する。毎日反省し「自分の殻」を破るために一生懸命努力する。プロ魂が伝わって来る。

くらしと保険のおはなし

死亡保険は契約形態に注意しましょう！



保険金を受け取った時の税金は、契約者・被保険者・受取人の関係で税金の種類が変わってきます。

死亡保険金の課税関係

ケース	契約者 保険料負担者	被保険者	保険金 受取人	税金の 種類
1	夫	夫	妻	相続税
2	夫	妻	夫	所得税
3	夫	妻	子	贈与税

死亡保険金の課税対象額

税金の種類	課税対象額
相続税	死亡保険金+積立配当金
所得税・住民税	(死亡保険金+積立配当金-払込保険料総額-特別控除50万円)×1/2
贈与税	死亡保険金+積立配当金-基礎控除110万円

死亡保険金の課税関係の表から

ケース1

契約者と被保険者が同一人の場合は、相続税の課税対象となります。

- 死亡保険金は 500 万円×法定相続人数の金額までは非課税。
- 基礎控除で 3,000 万円+600 万円×法定相続人数の金額までは非課税。
- 配偶者には税額軽減があり、相続した財産が 1.6 億円以下または 1.6 億円を超えた場合であっても法定相続分までなら相続税額がゼロ。

相続税には各種控除があるため、相当高額な相続財産がない限り相続税を納める必要はありません。

死亡保険金は残された家族の生活保障と

いう大切な役割があるため相続人(特に配偶者)が死亡保険金を受取る場合の税負担は小さくなっています。

ケース2

契約者と受取人が同一人の場合は、一時所得として所得税・住民税の課税対象(総合課税)となります。

ケース3

契約者、被保険者、受取人がそれぞれ異なる場合は贈与税の課税対象となります。

このように、死亡保険は受取時に保険金にかかる税金が「相続税」になるようにするのが税負担が少なくベストです。死亡保険金は受取時にかかる税金が大きく変わりますから、契約形態には注意をしましょう。

《ポイント》

契約者と受取人は、契約が継続中の場合はいつでも変更することが可能です。

保険期間の途中で契約者(保険料負担者)・保険金受取人を変更した場合、変更した時点では課税されませんが、契約者・保険金受取人を変更した後に保険金を受け取った時は課税関係が変わってきます。

☆ 契約者を変更した場合は、保険金支払事由が発生した時に、変更前と変更後に分けて課税されます(解約した場合も同じ)

☆ また、死亡保険金受取人を変更した場合は、保険金支払い事由が発生した時の死亡保険金受取人と契約者、被保険者の関係により課税されます。



リオの金メダルは夏季五輪では最も重い 500 g

【編集後記】

今年の夏は例年にもまして暑い夏だった。スポーツ界では、イチローが大リーグに移籍してから 3000 本安打という金字塔を立てた。

全国高校野球は、54 年ぶりに作新学院が優勝し幕を閉じた。

リオ・オリンピックでは、選手の健闘・活躍で史上最多の 41 個のメダルを獲得し国中を沸き立たせた。

陸上 400M リレーでは米国・カナダなどの強豪を抑えて堂々の銀メダルを獲得した。緻密な戦略と団結の賜物であり世界から驚嘆の声が上がった。

次は、いよいよ東京オリンピックだ。頑張れ日本!!